

<調査結果の概要>

1. カテゴリー別市場

カテゴリー	2007年見込	対前年比	2008年予測	対前年比
嗜好飲料	1兆9,730億円	102.1%	1兆9,749億円	100.1%
乳性飲料	1兆1,539億円	100.8%	1兆1,650億円	101.0%
機能性飲料	6,045億円	106.4%	6,078億円	100.5%
果実・野菜飲料	5,792億円	102.6%	5,881億円	101.5%
炭酸飲料	5,284億円	103.0%	5,286億円	100.0%
ミネラルウォーター類	2,786億円	117.6%	2,990億円	107.3%
その他飲料	559億円	85.3%	558億円	99.8%
合計	5兆1,735億円	102.9%	5兆2,192億円	100.9%

07年当初、清涼飲料はミネラルウォーター類と嗜好飲料が拡大するものの、その他カテゴリーは横ばい若しくは縮小し、それに伴い全体市場も微減が予想されたが、8月の酷暑、9月の記録的残暑により炭酸飲料やミネラルウォーター、麦茶などの止渴性の高い飲料の特需と、各カテゴリーにおけるヒット商品の登場で、07年は前年比2.9%増の5兆1,735億円が見込まれる。

嗜好飲料の缶コーヒーでは“微糖”ブームによってキリンビバレッジの「ファイア挽きたて微糖」がヒットしているほか、秋にはコカ・コーラボトラーズやサントリーからレギュラーの大型商品が発売され、熾烈な争いが展開されている。また、日本茶は06年にマイナスに転じ、07年も引き続きマイナスが見込まれるが、ウーロン茶は6年ぶりの対前年プラス成長が見込まれる。乳性飲料のコーヒー系乳飲料では、CVSのチルドカップコーヒー売場をめぐって棚割争奪戦が繰り広げられている。また、乳酸菌飲料では、植物性乳酸菌を訴求した商品投入の動きなどで市場は活性化している。野菜系飲料では、1日分の野菜摂取を訴求した商品の伸びが鈍化してきた中、野菜混合果汁飲料は依然として伸びている。炭酸飲料は、酷暑と残暑という追い風にのり全体的に好調である。特にコーラ飲料が好調で3年ぶりの対前年プラス成長が見込まれる。ミネラルウォーター類も8月以降の気温上昇というプラス要因もあり、国産・輸入ともに2桁増が見込まれる。売価下落が続いていた国産ミネラルウォーター類では、価格が安定しているパーソナルサイズ商品の展開が活発化し、海外ブランドの牙城をどこまで切り崩せるかが注目される。輸入ミネラルウォーター類では、フレーバー付ミネラルウォーターという新たなカテゴリーが創出し、今後の需要拡大が期待される。

## 2. 容器・容量動向

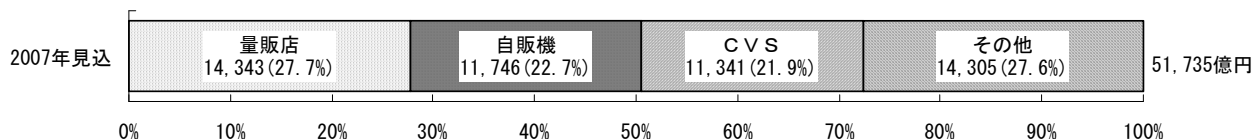
容器・容量	伸び率(06年比)	2007年見込
1位 パーソナルカップ	133.7%	860億円
2位 スパウト付パウチ	123.1%	617億円
3位 350ml 以下 PET	114.5%	3,626億円
4位 500ml PET	107.9%	8,889億円
5位 2ℓ PET	104.9%	3,566億円

左表は06年実績に対する07年見込の伸び率上位の容器・容量である。金額は容器・容量別の清涼飲料の販売実績である。

パーソナルカップやスパウト付パウチ、350ml PETは対06年比2桁増が見込まれる。販売実績が最も高いのが、500ml PETで

ある。その他、900ml～1ℓ PETは微増。ボトル缶、340/350g缶は、前年割れが見込まれる。以前主力であった340/350g缶は自販機で採用が続いていたが、自販機でリシール容器（蓋を開け、閉めることもできる容器）の取り扱いが可能になったことで、商品の容器リニューアルとともにリシール容器へと切り換えられている。

## 3. チャネル別動向



カテゴリー別では、強いチャネルや弱いチャネルの特徴が現れるが、清涼飲料全体では、それほど大きな差はない。その他を除く自販機、量販店、CVSでは、量販店が07年見込で27.7%と最もウエイトを占めている。また、07年はCVS限定発売の商品が目立ち、CVSの構成比が僅かに高まると見込まれる。

以上

### <調査対象>

※別品目の内数である。

分類	調査対象品目
果実・野菜飲料	100%果汁飲料、果汁飲料、果汁入清涼飲料、低果汁入清涼飲料、果粒含有果実飲料、果肉飲料、野菜系飲料（トマト飲料・野菜飲料・野菜入混合果汁飲料）
炭酸飲料	コーラフレーバー飲料、透明炭酸飲料、果実着色炭酸飲料、乳類入炭酸飲料、ジンジャーエール、果汁含有炭酸飲料（果汁入炭酸飲料・低果汁入炭酸飲料）
乳性飲料	飲用牛乳、乳飲料（白物乳飲料・コーヒー系乳飲料・色物乳飲料・カップ乳飲料※）、乳製品乳酸菌飲料、乳酸菌飲料、乳類入清涼飲料、殺菌乳製品乳酸菌飲料（ストレート）、ドリンクヨーグルト
嗜好飲料	缶コーヒー、リキッドコーヒー、PETボトルコーヒー※、紅茶、ウーロン茶、麦茶、日本茶、ブレンドティ、その他ティドリンク、機能型ティドリンク※、ココアドリンク、冬期型飲料（スープ・甘酒・おしるこ）
ミネラルウォーター類	国産ミネラルウォーター類、輸入ミネラルウォーター類、酸素強化水※
機能性飲料	食系ドリンク、健康サポート飲料（PET/缶/紙・小瓶・スパウト付パウチ）、機能性清涼飲料、スポーツドリンク※
その他飲料	豆乳類（豆乳類・大豆飲料）、ビネガードリンク

### <調査方法>

富士経済専門調査員によるヒアリング調査及び各種統計資料等による文献調査

### <調査期間>

2007年9月～10月

資料タイトル	「2007年 清涼飲料マーケティング要覧 No. 2」
体裁	A4判 392頁
価格	150,000円（税込み157,500円） CD-ROMセット価格160,000円（税込み168,000円）
調査・編集	富士経済 東京マーケティング本部 第一事業部 TEL:03-3664-5821 FAX:03-3661-9514
発行所	株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル TEL03-3664-5811（代） FAX 03-3661-0165 e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL : <a href="http://www.group.fuji-keizai.co.jp/">http://www.group.fuji-keizai.co.jp/</a> <a href="https://www.fuji-keizai.co.jp/">https://www.fuji-keizai.co.jp/</a>